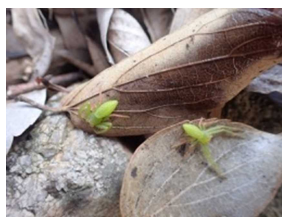
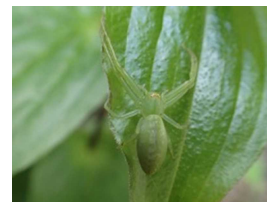


## 目覚め

### 1. ワカバグモの幼体

「若葉クモ」の名前通り、その体は若葉色です。春先、新緑の葉の上で餌となる虫を待つための隠蔽色なのです。クモの仲間では幼体と成体で色や模様が変わることは珍しくありません。ワカバグモは成体になるとチョコレート色の部分が出てきますが、ほぼ一生同じ色で、冬でも若葉色です。秋に生まれ、年を越して夏に性成熟します。



樹の葉上で生活することから、目につく機会が多いのですが、冬は落ち葉の間で過ごすため、視界から消えます。樹の根元の落ち葉をめくると姿を現します。色が緑のままなので、すぐわかります。どこにでもいるごく普通のクモで個体数も多く、どんどん見つかります。葉にいる時の方が気づきません。隠蔽色の効果がわかります。



3月になれば暖かい日もあります。落ち葉めぐりで見つけた個体を落ち葉といっしょにそのままにしておくと、やがて落ち葉の下に潜り込んでしまいます。樹上に登っても居場所がないことがわかっているのでしょう。樹が新緑になる時が活動開始の合図です。

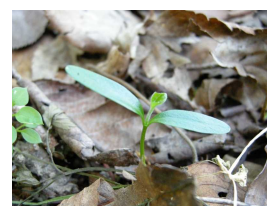
### 2. 子葉のいろいろ

種子が一斉に発芽する中で、最も早いのがイロハモミジです。地上部に現れる最初の葉は、子葉とよばれています。この後に出てくる本葉とよばれるものと、かなり形態が違います。子葉は同じような形をしており、本葉が出てこないとなんの芽生えかわからないのが普通です。わかる人は経過観察を続けている人です。



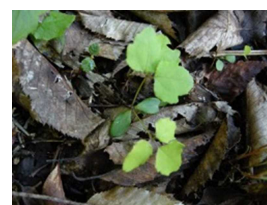
イロハモミジ

子葉の役目は、発芽後すぐに光合成をして成長に必要な物質やエネルギーを供給することにあります。したがって、すでに栄養を蓄えている種子では、どんぐりのように緑色をしていないものや、マメのように土中であって地上に出ないものもあります。子葉数で、被子植物は単子葉、双子葉と分類しますが、裸子植物はマツのように細い子葉を多数つけるものが多く見られます。進化した被子植物は、効率よく光を受けるために、準備していた子葉を数倍も大きくし、扁平で水平な状態に広げるしくみだと思っていたところ、ノグルミのように切れ込みのある子葉をつける(No.22 参照)ものもありました。



アオツツラフジ

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2023)



ミツバアケビ



モミ



アカマツ



← コナラ  
どんぐりが子葉  
見えているのは本葉



ノグルミ